

窓とガラスのエキスパートとして 地域の人々の快適な住まいづくりに貢献

1968年に、シャッター工事会社として創業された「ところざわ産業」。40年以上にわたり地元密着型経営を続け、現在は窓、ガラスのリフォームを中心に、住宅のリフォームを幅広く手掛けている。本日は、とこさんへの愛称で親しまれている同社を渡嘉敷勝男氏が訪問。今も現役の職人である会長と共に同社の指揮を執る、本橋社長にお話を伺った。

渡嘉敷 まずは、御社の事業内容から。

本橋 当社は現会長を務める父が1968年にシャッター工事会社として興した会社でして、現在は窓、ガラスを中心に、あらゆるリフォーム工事を手掛けています。私は学業修了後、当社が当時から代理店を務めている大手建材メーカーに入社し、所長職を経て、32歳の時に父から呼ばれて家業に入りました。

渡嘉敷 御社に入社して、まずどのようなことから始められたのですか。

本橋 当社に入ると決めた時、前勤務先の上司から「これまでは売上が最優先だったが、家業に入ってからはまず回収を優先させなさい」というアドバイスをいただきました。

してね。確かに当社に入ってみると、回収

作業が随分と疎かになっていて。そこで、まずは回収に力を注ぎ、徐々に問題点を改善していったのです。また、それまでは地の元の仕事や建築会社の方々から仕事をいただいていたのですが、景気が悪くなったことで仕事量が激減していました。そのため、直接エンドユーザーの方々からの依頼も受けようと、HPやチラシを制作するなどして、積極的なPR活動にも着手。お客様で知名度もアップし、最近ではHP検索で当社の屋号をそのまま入力しなくても、かなり上位に表示されるようになりました。こうしたことが実現できたのも、前勤務先で培ったノウハウがあればこそ。私

を育ててくれた前勤務先の方々や、そちらでの経験には本当に感謝しています。

渡嘉敷 現在、多く寄せられる依頼は？

本橋 今はエコの時代ですから、室温の低下や結露を防いで省エネに貢献する二重窓の取り付け、真空ガラスへの交換リフォームの依頼が多いですね。また、防犯・防音リフォームや、ガラスや窓以外の部分では、ドア、水廻りのリフォーム、エクステリア

工事の依頼も多くなっています。当社は、工事技術はもとより、企画力、提案力にも絶対の自信を持っていますので、窓、ガラスだけでなく、住まいのリフォームのことなら、どんな些細なことでもご相談いただきたいと思います。また、工事を行う上で「リデュース・リユース・リサイクル」の3Rを実践しており、社会環境にも寄与できる企業を目指しています。

渡嘉敷 では、最後に今後への意気込みを。

本橋 社員を含め、取引先の方々など、周囲の皆様のおかげで今があると思っています。今後も、皆様から長く愛され続ける会社であるために、信頼される質の高い仕事に徹して参ります。



代表取締役

本橋 満

もとはしみつる：

1963年、埼玉県生まれ。学業修了後、大手建材メーカーに就職。10年間在籍し、32歳で家業に。2003年に「ところざわ産業」の代表取締役に就任し、事業体制の変更など二代目とは思えない程の大胆な改革を行う。ボランティア活動にも熱心で、11年の夏2回目となる活動を石巻市で実施。趣味はゴルフ、テニス、映画鑑賞、料理など多数。将来の夢はハワイに住むこと。



ゲストインタビュアー

渡嘉敷勝男

(元世界お笑いチャンピオン)



「[経営規模の大小にこだわりはありません。お客様、社員、取引業者、関わる全ての皆様に幸せになってもらえる会社でありたい]と仰っていた本橋社長。チャレンジ精神旺盛で、周囲への感謝の気持ちを大切にされる社長なら必ず実現されるでしょう!」

株式会社 ところざわ産業

埼玉県所沢市岩岡町 642-15

TEL 04-2922-4333

FAX 04-2928-2756

URL : <http://www.tokosan.com>